北陸三縣 大津なみ ホーカイ節

「北陸の 大つなみ 水害さわぎのそのうちに 眼もあてられぬ憐れさよ ホーカイ

「怖ろしい いきおい激しき大つなみ のがれるひまもなき有様 ホーカイ

「田地田畑の 限りは今度の大つなみに 末代までもはなしの種 ホーカイ

「見るうちに 家は溺れて流れゆく 其も拾ふ人立のまゝ ホーカイ

「おどろきし 万代未聞の水害は 青森岩手に宮城縣 ホーカイ

「船に居て 助かる漁夫の運強く さそる徴の天命ぞ ホーカイ

「時節とは あはれなるかな あまた漁夫 こがれ死ぬまで[illegible] ホーカイ

「地震より 永もこの大つなみに のがれるひまなき水の泡 ホーカイ

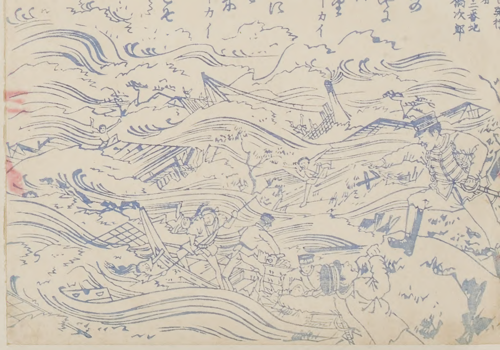
「妻子の 離れて叫ぶ声あれば 妻や子と[illegible] ホーカイ

「惨憺あれ 六万余人の 死傷しゃ 残る妻子は 憐れなり ホーカイ

「お恵みは 政府の 慈悲の救助に 万民あまねく あつむ米 ホーカイ

「四海みな 兄弟 ありやこそ 捨ておかれ 倶共募集の 義捐金 ホーカイ

全年八月二十日発行
画工印刷兼発行者
日本橋区新葭町二番地
楠山橘次郎



北陸三縣 大津なみ 縁かいな節

「北陸の つなみ騒ぎは あつくお眼も あてられぬ 不思議に 離れぐ 親と子が あるも前世の 縁かいな

「親の 落ちの家藉も 地震の ために つぶされて あんと十方に 暮の鐘 これも自然の 天災かいな

「地震の わとの大つなみ 騒ぐ中へ また火事を 生まれながらも 家ぐ大きな 難かいな

「先祖代々 神代の[illegible] 家財田地も 流し河へ 行衛もあてなく しる く 救ひ てかいな

「福ひ 幾 三縣は 後の世までも 忘れぬ縁 関も憐れ 青森岩手 宮城の 縁かいな

「一時よせ来る 大つなみ 逃げるも引くも かなはぬとそれ 後の 勤業を 打つ波の 狗へどんく ドンかいな

「関も浮ぶも 沈むも こんど つなみの 人死へ 負傷合せて 六万余 実によむざんな かいな

「万死を のがれて一生を たすかる 漁師の 運強く 不幸のうちの 僥倖わざと めぐまるる 天の かいな

「難に罹りし 万民は 世にあまる 悲しみも あく 半生 あがむ 政府の 救助米 めがく 海 め廻るかいな

「府縣 市内の 人々が 東西南北 奔走し 有志の 者が 募集して 贈る 義えんの 金の かいな

明治廿九年七月　日印刷
全　年同月廿日発行
画工印刷兼発行者
日本橋区新葭町二番地
楠山橘次郎

北陸三縣 大つなみ 一ツトセ節

一ツトセ「ひどく おどろく 北陸の 前代未聞の 大つなみと 世の たとへぐさ

二ツトセ「ふ幸の ひとびと ひからむ 忙しく 青森岩手や 宮城縣 その 幸いよ

三ツトセ「見るもおそろし 大洪水 たるで 地震に まさるとも 誰が 恐ろしい

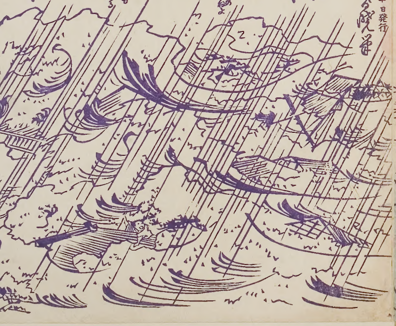
四ツトセ「よくよく 繰りや 高く 津[illegible] 大あれし ひどく 気の毒 よ まだも あきれる

五ツトセ「いきおひ激しき 大つなみ にげる ひまなき 有間 みんな 乞ひ なげく

六ツトセ「むざんなる やつなみで ひとの死傷は 六万よ ふじやうも あるとか

九ツトセ「ときならぬ それは つかなく のがれ 漁夫の うんのよさ

十ヲトセ「どうやら のがれる 罹災者を めぐむ 政府の 救助米

十一トセ「いまさら ついて せいふも つなみで ひとの ひかさげ

明治廿九年七月八日印刷
全年同月十日発行
監写印刷兼発行者
浅草区七軒町四番地
内藤英次郎